

政務活動費 活動実績報告書

件名	会派研修、東京都
使途	1 調査研究費 ○ 2 研修費 3 要請・陳情活動費
金額	9 4 6 7 5 円
期日	令和 7 年 5 月 1 4 日 (水) ~ 令和 7 年 5 月 1 6 日 (金)
場所	東京都 ①久留米市東京事務所 ②紀ノ川市東京事務所 ③日本自治創造学会 (明治大学)
目的	地方自治体が直面する課題の解決に向けた先進的な取り組みや理論的知見を学び、今後の八女市政における政策形成や議会活動に活かす。 東京の自治体事務所を訪れ、国と連携する方法、自治体政策研究の最前線に触れることを通じて、政策提案力と広域的な視野を高めることを主眼とした。
参加者	会派 政策ミライ
概要	<p>① 久留米市東京事務所 久留米市東京事務所の視察を通じて、基礎自治体がどのようにして国とのパイプを維持し、政策実現や予算獲得に向けた活動を行っているかを具体的に学ぶことができた。 特に要望や連携が多いのは国土交通省ではあるが中央省庁との連携を重視し、日常的に要望や情報交換を行っているという点である。職員が常駐し、「顔が見える関係性」をもって政策獲得につなげていると感じた。</p> <p>② 紀ノ川市東京事務所 紀ノ川市東京事務所は、国との連携だけでなく、企業誘致や情報発信、関係人口の創出にも力を入れており、事務所としての進出は去年。治水が極めて重要な一級河川を有し、同様に国土交通省との連携は重要である。また移住定住やふるさと納税の PR にも力を入れているという事も伺った。</p> <p>年間経費はどちらも 2000 万前後という話を伺っている。今後、八女市としても、人的ネットワークの強化や情報収集体制の見直しなど、中央との距離を埋める工夫は検討できると感じた。</p>

所感

③日本自治創造学会（明治大学）

明治大学駿河台キャンパスで開催された第17回日本自治創造学会に参加し、2日間にわたり、計8名の講師による講義を受講した。いずれも地方自治における政策課題、ガバナンス、地域経営のあり方について多面的な視点から構成されており、議員としての役割や、自治体が直面する現実に対する理解を深める貴重な機会となった。

まず全体を通じて強く感じたのは、「地方自治体がいかにして生き残っていくか」という問いが、もはや机上の議論ではなく、現実の政策判断として日々突き付けられているという危機感である。人口減少、税収の減少、社会保障費の増大、災害リスクの複雑化といった課題のなかで、自治体の役割が従来の“行政サービスの提供者”から、“地域経営の主体”へと移行している。その転換点にあって、議会もまた単なるチェック機関ではなく、政策形成の一翼を担う存在であるべきとの認識が、講義の随所に込められていた。

初日の講義では、地方行政の変遷や制度的背景に加え、実際に首長経験を有する講師による自治体経営の実例が紹介された。特に印象的だったのは、自治体の限られた資源をどう戦略的に再配分していくか、という具体的な話である。施設統廃合や予算配分をめぐるっては、住民の理解と協力を得るための“対話”の質が問われており、ここに議員の関わり方も深く関係してくる。単なる賛否ではなく、プロセスをつくる力が今後ますます重要になってくると実感した。

また、ガバナンス論の講義では、「正しいことを、正しく決めるための仕組み」をどう構築するかというテーマが語られた。行政内部だけでなく、議会、地域住民、NPO、企業といった多様なアクターが、それぞれの立場で役割を果たす“協治（ガバナンス）”のあり方は、従来の“統治（ガバメント）”と明確に異なる。ここで求められるのは、専門知識だけではなく、信頼関係、情報の透明性、そして粘り強い調整力である。議会がその一翼を担うには、単なる監視役ではなく、地域社会の合意形成装置としての自覚と実践が必要だと感じた。

2日目には、危機管理、財政運営、広域連携、AI活用といったより実務的なテーマが中心となった。中でも、災害時の議会の役割やBCP（業務継続計画）における議員の位置づけについては、議会もまた、災害時に「機能を止めてはならない存在」である以上、議会自らの体制整備や訓練の必要性がある。

また、自治体間連携や広域行政の重要性についても、これからの時代においては避けて通れないテーマであると再認識した。八女市のような中小自治体においては、単独で全てを担うことの限界が明白になりつつある。人材・財源・専門知識を共有しながら、地域全体の最適解を模索する“共助型の行政”への転換が必要である。その中で、議会が「自分のまちの利益」だけでなく、「地域全体の将来像」を描く姿勢を持てるかが問われている。

さらに、AI・デジタル技術に関する講義では、業務効率化やデータ分析の可能性だけでなく、自治体における実装の難しさも含めて現実的な議論がなされた。

講師は東京都知事選で一躍有名人となった安野貴博氏。今回の一般質問で私も発言したことと重複するけれど便利さに飛びつく前に、情報の非対称性や倫理面、住民の理解といった「見えにくい壁」をどう乗り越えていくか。こうした点も議会として見落としてはならない視点だろう。

今後、今回の視察研修で得た知見を、日々の議会活動に具体的に落とし込みながら、市民の声を政策につなぐ役割を果たしていきたい。